

未就園児の保護者への支援に関する研究

〈代表研究者〉	松田 典子	(文教大学)
〈共同研究者〉	和田上 貴昭	(日本女子大学)
	高橋 久雄	(社会福祉法人至誠学舎立川)
	三浦 修子	(至誠第二保育園)
	長谷川 育代	(万願寺保育園)
	廣瀬 優子	(しせい太陽の子保育園)
	靄田 清江	(至誠あずま保育園)
	高橋 智宏	(至誠いしだ保育園)
	高橋 滋孝	(至誠ひの宿保育園)
	高橋 紘	(至誠保育福祉研究所)

研究の概要

本研究は、未就園児の保護者が必要としている支援について、まず、(1) これまで保育所で行ってきた相談記録簿の相談内容から分析(子どもの発達への不安、食事や栄養、発達に応じた遊びの工夫、等)し、次に、(2) 未就園児の保護者を対象としたアンケート調査を実施することで、どのような支援が必要であるのかを探った。

まず、(1) 相談記録簿の分析では、調査対象の保育所6園で、直近4年間(2019～2022年度)における相談記録簿の内容を確認し、子どもの年齢と相談内容によって分類した。相談内容としては、全体的に、「発育・発達」、「基本的な生活習慣」に関する相談が多くあり、各園の特徴によって相談の子どもの年齢や内容に違いがみられた。次に(2) 未就園児の保護者へのアンケート調査では、具体的な不安なことや困ったことでは、子どもの発達や生活面などの事柄が多く挙げられていたのに対し、支援については、行事やイベントに関することが多く挙げられていた。

こうしたことを踏まえて、今後、未就園児の保護者に対する支援としては、(1) 発達や生活に対して専門家からの助言や支援、(2) 親子や保護者の交流が持てる機会、といったことが考えられる。

キーワード(5つ): 未就園児、保護者、子育て支援、保育所、地域

1. 研究の動機と研究目的

1. 背景

令和4年6月の改正児童福祉法の成立により、こども家庭センターの設置が努力義務化され、保育所等が地域子育て相談機関となる見込みである。また保育所は、保育所保育指針に明記されている通り、「保育所は、入所する子どもを保育するとともに、家庭や地域の様々な社会資源との連携を図りながら、入所する子どもの保護者に対する支援及び地域の子育て家庭に対する支援等を行う役割を担うものである。」と、地域に対する子育て支援の役割も求めら

れている。そこで、保育所が行うべき子育て支援の対象として、保育所を利用している児童の保護者以外に、日頃、保育所は利用していないが、保育所の子育て支援を必要としている未就園児の保護者の存在がある。

地域における保育園の子育て支援の具体的なものとしては、保育園の園庭開放、子育てに関する相談、育児講座や保育所の見学会、といったものがある。実際にそれらを利用している未就園児の保護者がおり、これまで保育所における子育て支援の実践には蓄積がある。これまでに行われている研究では、保育園に通う園児の保護者に対する相談内容や事例研

究（鑑・千葉（2004））、その効果や構造に関する研究（福永ほか（2022）、田中ほか（2023））、保育者が保護者支援で抱える困難感（岸本・武藤（2019））や違和感（山西ほか（2023））など保育所に通う保護者に対する子育て支援に関しての調査がある。一方で、保育所に通っていない未就園児のニーズや多様な支援を網羅した分析はあまり行われていない。未就園児の保護者に必要な支援については、小嶋（2022）があるが、「無園児家庭の孤独感と定期保育ニーズに関する全国調査」を引用した上で、支援が必要な人ほど自発的な利用からは距離があり、「いろいろなサービスを利用するには、本人の自発的なアクセスが必要」ということを指摘しており、支援する側が支援を意識しすぎずに、保護者同士の学びあいや関係性や場の力を生かすことが必要であることを述べている。しかしながら、近年の保育施策の検討会の議論からの考察であり、保育所を取り巻く実態を調査したものではない。そこで、まず未就園児の保護者に対する子育てに関する支援はどのようなニーズがあるのかを、これまでに実際に保育所に寄せられてきた子育て相談や保育所の保育資源の利用状況といった蓄積から調べていく必要がある。また保育所を利用していない未就園児の保護者が必要とする支援の特徴を明らかにすることが必要となる。

また保育所における子育て支援が求められる背景には、その保護者の置かれている育児サポートの状況も把握する必要がある。例えば、父親の育児参加の違いによって、母親の育児負担感は大きく異なることがこれまでの様々な研究から示されている。

そこで、本研究では、父母の子育て分担割合や保育所以外サポート状況なども把握しながら、どのような子育て支援が必要とされているのかを探求する。

2. 研究目的

本研究は、未就園児の保護者が必要としている支援について、まず、（1）これまで各保育所で行ってきた相談記録簿の相談内容から分析し、次に、（2）未就園児の保護者を対象としたアンケート調査を実施することで、どのような支援が必要であるのかを明らかにする。

II. 研究方法

（1）相談記録簿の分析

1. 調査対象と期間

- ・対象：Z市内の保育所6園（園①～園⑥）の子育て支援を活用する地域利用者の相談記録
- ・対象期間：2019年度～2022年度（4年間）
- ・調査方法：各保育園に保管されている未就園児の保護者の相談記録簿を相談内容別に分類する。

2. 分析方法

子育て支援相談の記録簿の件数について、年齢別、内容別に集計を行った。年齢は、0～5歳児で分類し、相談内容は、「健康」、「家庭・生活環境」、「発育・発達」、「養育不安」、「虐待」、「基本的な生活習慣」、「教育・しつけ」、「入園・社会施設」、「非行・いじめ」、「経済・就労」、「その他」の11項目で分類した。

3. 結果

各園（園①～園⑥）での相談記録簿の相談内容を集計し、分類した結果、次の通りとなった。

《園①のケース》

園①では、2019年度から2022年度の4年間にかけて、毎年、十数件の相談を受け付けている。この4年間の相談件数を合計したグラフが図1-1である。各年度の相談件数の分布については、表1-1～表1-4で示した。

右記の図表から、年齢別では、0歳児が最も多く、年齢が上がるにつれて、相談件数は減っている。また相談の内容としては、0歳児では、「健康」に関する内容が多く、それ以外の年齢では、「発育・発達」の内容が多くなっていることがわかる。

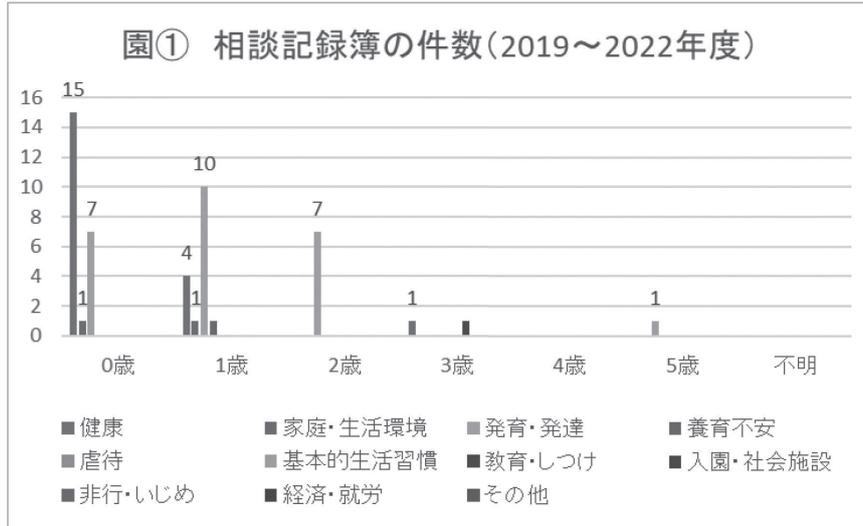


図 1 - 1 園①の相談記録簿の件数 (2019～2022年度)

表 1 - 1 園①の相談記録件数 (2019年度)

	健康	家庭・生活環境	発育・発達	養育不安	虐待	基本的な生活習慣	教育・しつけ	入園・社会施設	非行・しじめ	経済・就労	その他	合計
0歳	3	1	2									6
1歳	2		5									7
2歳			2									2
3歳	1						1					2
4歳												
5歳			1									1
不明												
合計	6	1	10				1					18

表 1 - 2 園①の相談記録件数 (2020年度)

	健康	家庭・生活環境	発育・発達	養育不安	虐待	基本的な生活習慣	教育・しつけ	入園・社会施設	非行・しじめ	経済・就労	その他	合計
0歳	1		1									2
1歳		1	2									3
2歳			1									1
3歳												
4歳												
5歳												
不明												
合計	1	1	4									6

表 1－3 園①の相談記録件数（2021年度）

	健康	家庭・生活環境	発育・発達	養育不安	虐待	基本的生活習慣	教育・しつけ	入園・社会施設	非行・いじめ	経済・就労	その他	合計
0歳	9											9
1歳												
2歳												
3歳												
4歳												
5歳												
不明												
合計	9											9

表 1－4 園①の相談記録件数（2022年度）

	健康	家庭・生活環境	発育・発達	養育不安	虐待	基本的生活習慣	教育・しつけ	入園・社会施設	非行・いじめ	経済・就労	その他	合計
0歳	2		4									6
1歳	2		3	1								6
2歳			4									4
3歳												
4歳												
5歳												
不明												
合計	4		11	1								16

《園②のケース》

園②では、2020年度から2022年度の3年間にかけて、毎年、数件の相談を受け付けている。この3年間の相談件数を合計したグラフが図1－2である。各年度の相談件数の分布については、表1－5～表1－7で示す。

園②では、園①とは異なり、年齢別で最も多いのが、2歳児の相談（計7件）であった。また多くの年齢において「発育・発達」の相談が多く、4歳児、5歳児の相談もある。

園②は、一時保育を行っているため、そこで幅広い利用があり、相談の年齢も広範囲にわたっているものと考えられる。

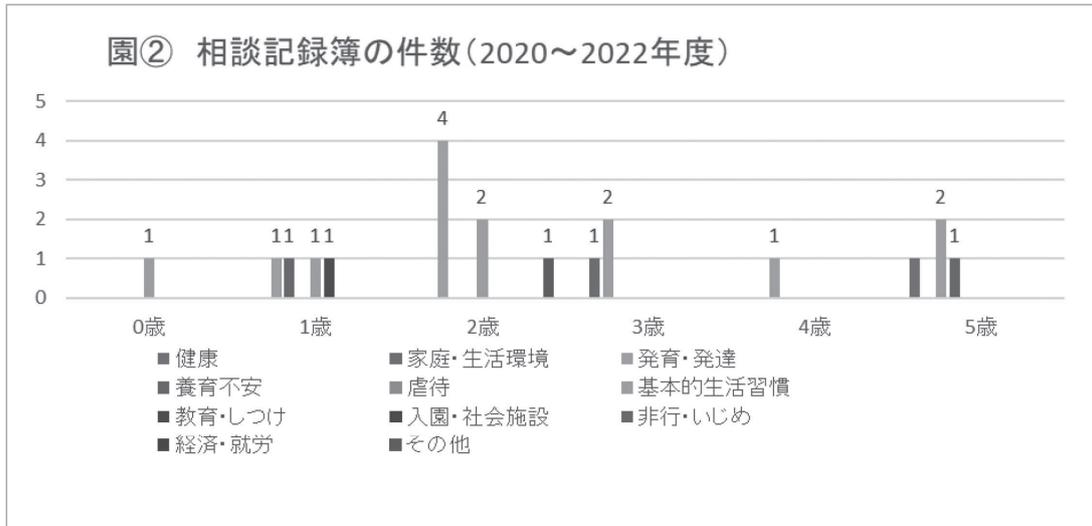


図 1 - 2 園②の相談記録簿の件数 (2020～2022年度)

表 1 - 5 園②の相談記録件数 (2020年度)

	健康	家庭・生活環境	発育・発達	養育不安	虐待	基本的生活習慣	教育・しつけ	入園・社会施設	非行・いじめ	経済・就労	その他	合計
0歳												0
1歳							1					1
2歳			2									2
3歳		1	1									2
4歳												0
5歳				1								1
不明												0
合計	0	1	3	1	0	0	1	0	0	0	0	6

表 1 - 6 園②の相談記録件数 (2021年度)

	健康	家庭・生活環境	発育・発達	養育不安	虐待	基本的生活習慣	教育・しつけ	入園・社会施設	非行・いじめ	経済・就労	その他	合計
0歳												0
1歳						1						1
2歳			2			1						3
3歳			1									1
4歳			1									1
5歳			1									1
不明												0
合計	0	0	5	0	0	2	0	0	0	0	0	7

表1-7 園②の相談記録件数（2022年度）

	健康	家庭・生活環境	発育・発達	養育不安	虐待	基本的 生活習慣	教育・しつけ	入園・社会施設	非行・いじめ	経済・就労	その他	合計
0歳						1						1
1歳			1	1								2
2歳						1					1	2
3歳												0
4歳												0
5歳	1		1									2
不明												0
合計	1	0	2	1	0	2	0	0	0	0	1	7

《園③のケース》

園③では、2020年度に、「基本的な生活習慣」に関する相談が3件（0歳児1件、2歳児2件）あった。2021年度は、「基本的な生活習慣」に関する相談が3件（1歳児1件、3歳児2件）、「教育・しつけ」に関する相談が1件（3歳児1件）であった。2022年度は、「発育・発達」に関する相談が1件（1歳児1件）、「基本的な生活習慣」に関する相談が3件（0歳児1件、1歳児1件、2歳児1件）、その他1件（0歳児1件）であった。具体的には、子どもの偏食や小食などの食事に関する相談が多くみられた。

《園④のケース》

園④では、直近の2022年度の相談記録簿を確認した。2022年度は、「発育・発達」に関する相談が1件（0歳児1件）、「基本的な生活習慣」に関する相談が2件（1歳児1件、2歳児1件）、「入園・社会施設」に関する相談が1件（2歳児1件）であった。具体的には、「発育・発達」に関する相談では、人見知りについて、「基本的な生活習慣」に関する相談では、おしゃぶりや、食べむら、歯磨きを嫌がる、といった相談があり、「入園・社会施設」に関する相談では、保育園では障害児は受け入れてもらえるのか、といった相談があった。

《園⑤のケース》

園⑤では保護者からの相談記録簿はないが、行政機関と連携した育児困難家庭の記録がある。この記録では、2020年度 135件、2021年度 241件、2022年

度 240件である（継続した相談もあり、継続案件についても新たに件数にカウントしている）。そのため、他園との比較ができないため、本稿では、データ掲載はしない。

《園⑥のケース》

比較的新しくできた園であり、2019年度に3歳児で「入園・社会施設」の相談のみ1件であった（2020～2022年度はコロナ禍もあり、0件）。

以上、直近4年間（2019～2022年度）における相談記録簿の内容を確認し、子どもの年齢と相談内容によって分類した。相談内容としては、全体的に、「発育・発達」、「基本的な生活習慣」に関する相談が多くあることがわかった。各園の特徴によって相談の子どもの年齢や内容に違いがみられた。

そこで、こうした相談記録簿にあるような相談以外に必要としていることを把握するために、未就園児の保護者向けの調査票を作成し、未就園児の保護者はどのようなことに困難を抱えており、どのような支援の必要があるのかをアンケート調査を実施した。

(2) 未就園児の保護者を対象としたアンケート調査

1. アンケート調査の対象、実施期間

Z市内の未就園児の保護者を対象に、アンケート調査を実施した。

- ・実施期間：2023年9月1日～11月25日
- ・配布場所：東京都Z市にある保育所6園（子育て支援相談や一時保育、園庭開放等の地域利用者）、近隣の公園

2. 分析方法

混合研究法による分析（①アンケートの統計的分析、②自由記述部分においては、テキストデータでの分析）

3. 倫理的配慮

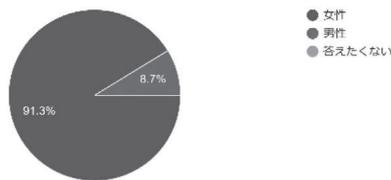
調査実施にあたっては、アンケート調査対象者に対して、調査協力者の個人情報明らかにしないようにすること、また調査により得たデータは、研究代表者のみがデータとして管理し、研究代表者が所属する大学の研究室以外でのデータ作成や分析を行わないという説明を調査票に付して行い、同意を得たもののみ調査を行った。

Ⅲ. 結果

アンケート調査の結果は、以下の通りとなった。

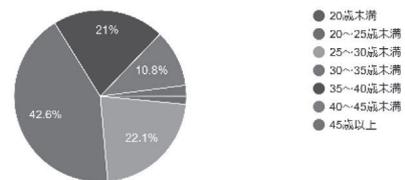
《基本属性》

F1 ご自身について伺います。性別をお答えください。
195件の回答



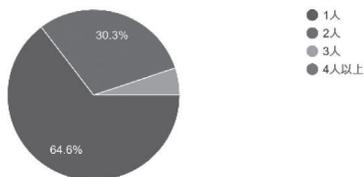
性別：女性が約9割（91.3%）

F2 ご自身の年齢についてお答えください。
195件の回答



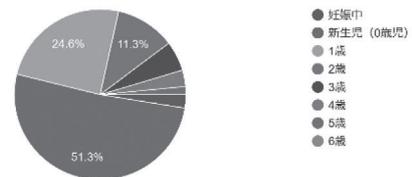
年齢層：最も多いのは、30～35歳未満（42.6%）

F3 お子さんは何人いらっしゃいますか
195件の回答



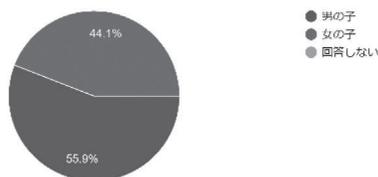
子どもの人数：最も多いのは、1人（64.6%）

F5 お子さんの年齢を教えてください（複数いる方は一番下のお子さんの年齢）
195件の回答



子どもの年齢：最も多いのは新生児（0歳）（51.3%）

F6 お子さんの性別を教えてください
195件の回答



子どもの性別：女の子（55.9%）、男の子（44.1%）

Q1

【育児態度】お子さんに対して（ごきょうだいの場合、一番下のお...普段、どのようにお考えですか。最も近いものを選んでください。

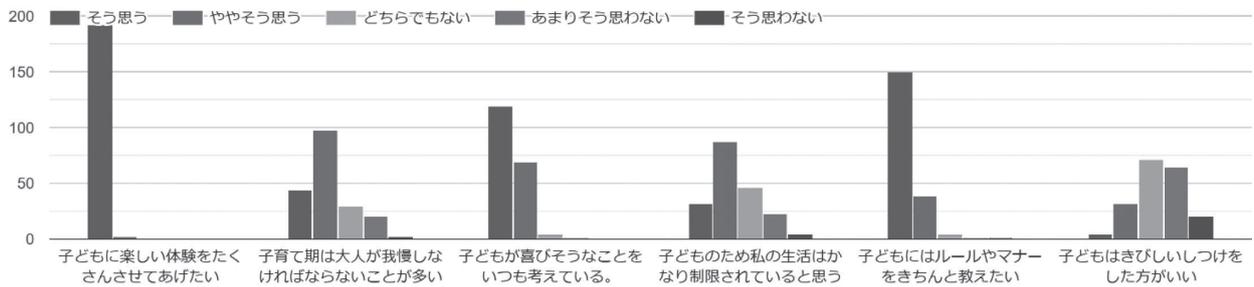


図1 育児態度（子どもに対して普段どのように考えているか）

（1）育児に対する考え方・関わり方

問1「《育児態度》お子さんに対して（ごきょうだいの場合、一番下のお子さんについて）、普段、どのようにお考えですか。最も近いものを選んでください」の質問では、6つの考え方について、「1 そう思う」～「5 そう思わない」の5段階でたずねた（図1）。

その結果、「子どもに楽しい体験をたくさんさせてあげたい」については、ほとんどのものが「そう思う」と答えていた。次いで、「子どもにはルールやマナーをきちんと教えたい」や「子どもが喜びそうなことをいつも考えている」が「そう思う」と答えるものが多かった。一方、回答が分かれたものとしては、「子どもはきびしいしつけをした方がいい」であり、「どちらでもない」と答えたものが最も多かった。子どものために楽しい経験や喜びそうなことを考えつつ、子育てとしては、きちんと教えるべきところは教え、しつけの態度ではどのように接するかが分かれる結果となった。

子育ては、子どもによって違いがあるのかを把握するために、問2きょうだいの有無、問3きょうだいでの育て方の違いの有無についてたずねた。結果は、以下の通りとなった（図2、図3）。

問2のきょうだいの有無については、「いる」が4割弱（35.9%）であった。問3では、そのうちのきょうだいでの育て方の違いの有無を尋ねたところ「ある」との回答は、約2割（19.4%）であった。

きょうだいでの育て方の具体的な違いについては、自由記述での回答が得られた。

《育児の経験による慣れ》（3件）

- ・まだ生まれたばかりですが、このくらいなら大丈夫という許容範囲が広がった。
- ・下の子の方が怖がらずに抱っこしたりお世話できる。
- ・下の子の出産前に、いろんな経験をして経験値を高めた。

Q2 お子さんに、ごきょうだいは、いらっしゃいますか。195件の回答

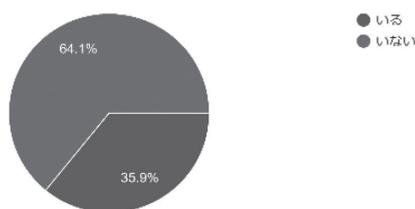


図2 きょうだいの有無

Q3 ごきょうだいがいる場合、きょうだいでの育て方の違いはありますか 108件の回答

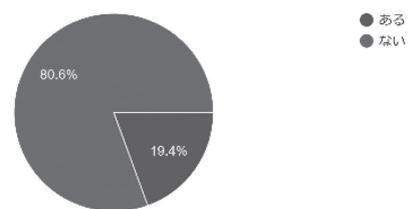


図3 きょうだいでの育て方の違いの有無

《上の子に厳しく、下の子に甘い》（3件）

- ・月齢によって、また上の子の方が厳しくなりがち。
- ・下の子には甘い。
- ・上の子には、きょうだいの中で年上としてどうあるべきかを伝えている。

《上の子は丁寧に、下の子は適度に》（5件）

- ・上の子に目がいきがち。
- ・上の子よりも目が行き届かないのもあり、一人でのびのび遊んでいる。
- ・1人目は沢山抱っこをしていたけれど2人目は寝かせがち。
- ・下の子への対応が雑になりがち。
- ・第二子は密に関わる時間が少ない。

《性格などによる違い》（5件）

- ・本人の受け止め方も違うので、本人の反応を見ながら試行錯誤している。
- ・下に物理的に手がかかる。育て方を変えているつもりはないが、上の子の目には、下の子が大事に写っているかもしれない。
- ・上の子は特にしなかったが、ネントレのようなことをしている。
- ・その子に合った育て方、対応をする。
- ・動き回りかた、理解する事、性格。

《発達障害の有無による違い》（2件）

- ・下の子はダウン症なのでより気長に育てている。
- ・下の子は障害児なので、すべてがゆっくりのため教え方もむずかしく、育て方も同じことをくりかえしている。

《その他（住まいの変化、アレルギーの有無、月齢による違い、など）》（3件）

- ・住まいや環境が違い、一人目よりも情報や経験に差がある為離乳食の進め方やしつけに関する関わ

り方が厳しくなるところや逆に緩くなるところがある。EX) 言葉は分からなくても伝え続ける事が大切と二人目の際に知り、ダメな事やいい事等とにかく伝え続けている。

- ・下の子はアレルギーがあるため上の子よりも、触るものや入れる場所など、上の子が同じ月齢のときに比べて子供の自由度が低い。
- ・年齢、月齢に合わせた目線での違い。

自由記述では、最も多い回答が、「兄弟による性格の違い」や「上の子は丁寧に、下の子は適度に」といった内容であった。育児の経験によって、二人目以降の育児は楽になるという傾向がみられる反面、その子どもによるということも自由記述からは表れている。

問4では、「《実際の関わり方》お子さんには、どのように関わっていらっしゃいますか。最も近いものを選んでください。」と、以下の1～9の質問項目について、「1. 全くしない」～「5. よくする」の5段階でたずねた（図4）。

1～9の質問項目とは、「1. 忙しくても子どもといつもたくさん話すようにしている」、「2. 言うことを聞かないと、感情的に叱ってしまう」、「3. 一緒に買い物をしていて子どもが泣いたりするとつい好きなものを買ってしまう」、「4. 子どもが悪いことをしたら、その行動がどうしていけないかを伝える」、「5. 子どもと一緒に遊ぶ時間を持つようにしている」、「6. 言うことを聞かないと、つい叩いてしまう」、「7. 子どもが困っていたら、すべきことをわかりやすく説明する」、「8. 子どもが苦手なことに挑戦していたら励まし、頑張ったねと褒めたりする」、「9. 子どもが不安になっているときは、大丈夫だよと身体にやさしく触れたりし安心できるようにする」である。

Q4【実際の関わり方】お子さんには、どのように関わっていらっしゃいますか。最も近いものを選んでください。

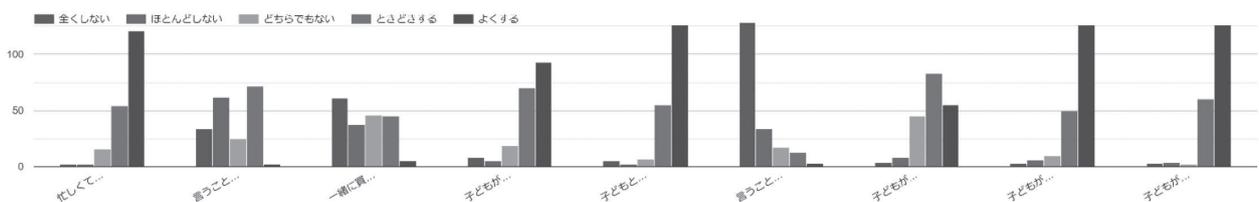


図4 実際の関わり方（子どもにどのように関わっているか）

問4の中で、「よくする」の回答が最も多い質問項目は、「1. 忙しくても子どもといつもたくさん話すようにしている」、「4. 子どもが悪いことをしたら、その行動がどうしていけないかを伝える」、「5. 子どもと一緒に遊ぶ時間を持つようにしている」、「8. 子どもが苦手なことに挑戦していたら励まし、頑張ったねと褒めたりする」、「9. 子どもが不安になっているときは、大丈夫だよと身体にやさしく触れたりし安心できるようにする」である。

一方で、「6. 言うことを聞かないと、つい叩いてしまう」をよくするとした回答はほとんどないが、一部でときどきするという回答がみられるほか、「2. 言うことを聞かないと、感情的に叱ってしまう」は、「ときどきする」がもっとも多くなっていることから、子育てに追い込まれる保護者の姿もみられる。

問5では、「《相談の場》普段の子育てで、ご相談できる人がいますか。」という質問で、「夫（または妻）」、「自分の両親」、「その他の親族（自分のきょうだいなど）」、「友人等」、「子ども家庭支援センター」、「保健センター」、「地域包括支援センター」、「児童相談所」、「保育所」、「その他」について、当てはまるもの全てを複数回答で回答を得た。

問5では、普段の子育てで相談できる人として、最も高い割合となったのは、「夫（または妻）」（94.4%）であり、次いで、「自分の両親」（78.5%）と「友人等」（77.9%）がほぼ同数で8割となった。また家族や親族など家庭以外での外部機関としては、「子ども家庭

支援センター」が23.1%と最も高く、次いで、「保育所」が10.8%となった。「地域包括支援センター」が1%程度、「児童相談所」が0.5%程度ということから比べると、保育所も外部機関としてすでに一定の割合から相談先として認知されていることがわかる。

問6では、「《周りの関わり》普段の子育てには、どのような人が関わっていますか。」という質問で、「夫（または妻）」、「自分の両親」、「その他の親族（自分の兄弟など）」、「友人等」、「ファミリーサポート」、「ベビーシッター」、「その他」がどれだけ関わっているのか、「1. 関わっている」～「5. 関わっていない」の5段階で質問した（図6）。

「夫（または妻）」は「関わっている」の回答が最も多い。「自分の両親」は、「時々関わっている」の回答割合が最も高くなる一方、「関わっていない」や「あまり関わっていない」も一定数みられる。「その他の親族（自分の兄弟など）」も同様の傾向がみられることから、核家族での子育てが主流となっていることと、夫婦で男女ともに子育てに関わるようになってきている様子が見られる。それ以外の両親や親族などのかかわりは、「時々関わっている」や「関わっている」がある一方で、「関わっていない」「あまり関わっていない」も一定数みられることから、主に夫婦のみで子育てをしている世帯があることがうかがえる。

また「その他」の回答はあまりなかったが、自由記述では、「保育所の一時保育」（8件）が最も多い回答であった。

Q5【相談の場】普段の子育てで、ご相談できる人...はまるもの全てをお選びください。（複数回答）
195件の回答

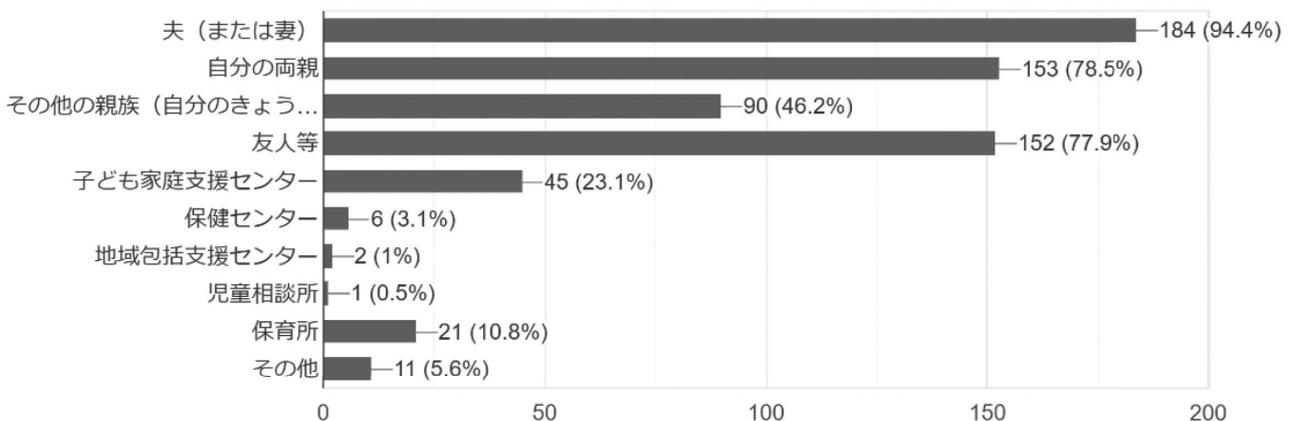


図5 相談の場（相談できる人）

Q6【周りの関わり】 普段の子育てには、どのような人が関わっていますか。

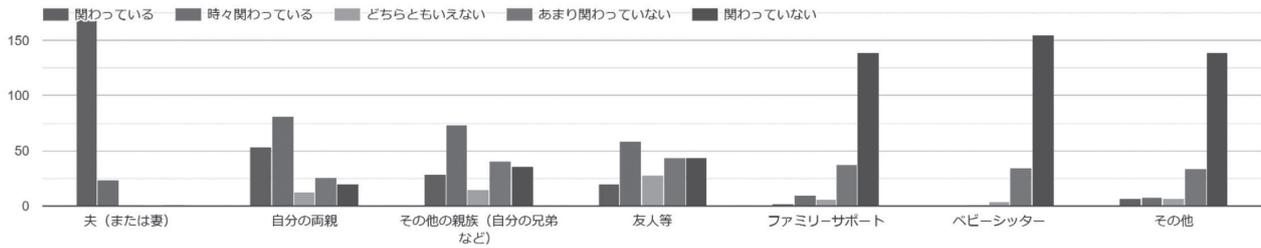


図6 周りの関わり（どのような人が関わっているか）

（2）家事・育児の分担

問7「《パートナーの協力》夫（または妻）は子育てに協力的ですか。」は、「1. とても協力的である」～「5. 協力的ではない」の5段階でたずねた。

Q7【パートナーの協力】 夫（または妻）は子育てに協力的ですか。
195件の回答

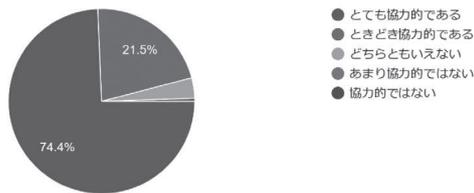


図7 パートナーの協力（夫（または妻）の協力

問7の結果は、が約4分の3（74.4%）が「とても協力的である」という回答となり、「ときどき協力的である」を加えると、ほとんど（95%）が協力的であると考えていることがわかる。

問8「普段、家事・育児以外はされていますか。」では、各項目についてあてはまるものについて回答を得た。

「フルタイムで働いている」（33.8%）が最も多く、次いで、「家事・育児以外はやっていない」（30.8%）となっている。「短時間勤務（パートタイム等）で働いている」（13.3%）も比較的高い結果となっており、フルタイムやパートタイム等で働く人と、家事・育児以外はやっていない人で分かれる結果となっている。

Q8 普段、家事・育児以外はされていますか。

ご自身にあてはまるものをすべてお選びください。（複数回答）

195件の回答

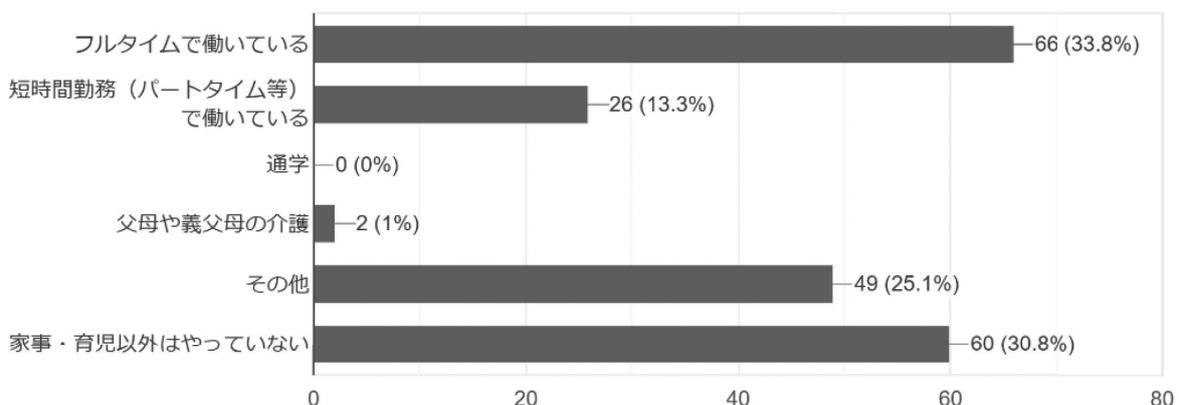


図8 普段していること（家事・育児以外）

問9「子育てや家事に、自分自身が関わっているのはどのくらいだと感じていますか。」は、「10%未満」、「10～30%未満」、「30～50%未満」、「50～70%未満」、「70～90%未満」、「90～100%」のいずれかで、自分自身が子育てや家事にかかわる割合についての回答を得た。（図9）

Q9 子育てや家事に、自分自身が関わっているのはどのくらいだと感じていますか。
195件の回答

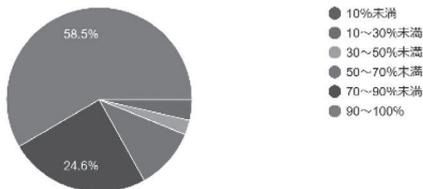


図9 子育てや家事に関わる割合（自分）

最も多かった回答は、「90～100%」（58.5%）で、次いで、「70～90%未満」（24.6%）であった。この二つを合わせると、主に自分が家事や育児を担っていると考えている人（70～100%）は全体の8割を占めていることがわかった。

問10「子育てや家事に、夫（または妻）が関わっているのはどのくらいだと感じていますか。」では、問9と同様の回答項目で、自分ではなく、夫（または妻）がどれだけ育児にかかわっているのかをたずねた（図10）。

Q10 子育てや家事に、夫（または妻）が関わっているのはどのくらいだと感じていますか。
195件の回答

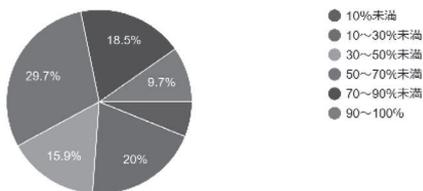


図10 子育てや家事に関わる割合（夫または妻）

問10では、最も多かったのが、「50～70%未満」（29.7%）であるが、次いで、「10～30%未満」（20%）、「70～90%未満」（18.5%）、「30～50%未満」（15.9%）と回答結果が大きく分かれた。

この結果からは、問9の自分が家事・育児に関わっていると感じている割合と問10の夫または妻が関わっていると感じる割合は連動しておらず、回答者による家事負担感の解釈が分かれたという可能性が考えられた。

問11「あなたは配偶者の家事分担にどの程度満足していますか。」では、「非常に満足」、「まあまあ満足」、「やや不満」、「非常に不満」の4段階で回答を得た（図11）。

Q11 あなたは配偶者の家事分担にどの程度満足していますか。
195件の回答

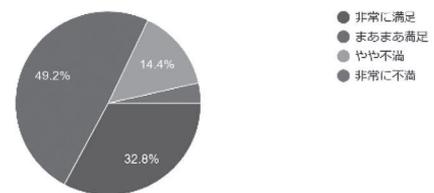


図11 配偶者の家事分担に対する満足度

問11は、「まあまあ満足」（49.2%）と「非常に満足」（32.8%）を合わせて、満足している割合が8割となっている。家事や育児にかかわる割合は相手の方が低いとしても、家事の分担には多くの人が満足している結果となった。

（3）必要な子育て支援

問12では、「現時点で、以下の各項目について、どのくらい支援や情報が必要だと思いますか。」という質問で、以下の6つの項目について必要と思う程度をたずねた。6つの項目とは、「生活面（トイレトレーニング等）」、「子どもの食事」、「子どもの成長に合わせた遊び」、「親同士の交流（ネットワークづくり）」、「地域の子育てに関する情報」、「地域の子どもの年齢に合ったイベント」である。

それぞれの項目について、「あまり必要を感じない」、「必要である」、「非常に必要である」、「どちらともいえない」の4段階で回答を得た（図12）。

回答の結果からは、すべての項目で「必要である」や「非常に必要である」が多い結果となった。そのうち、「非常に必要である」の回答が多かった項目は、回答の割合の高い順に、「子どもの成長に合わせた遊び」、「子どもの食事」、「生活面（トイレトレーニング等）」となっている。一方、「親同士の交流（ネット

Q12 現時点で、以下の各項目について、どのくらい支援や情報が必要だと思いますか。

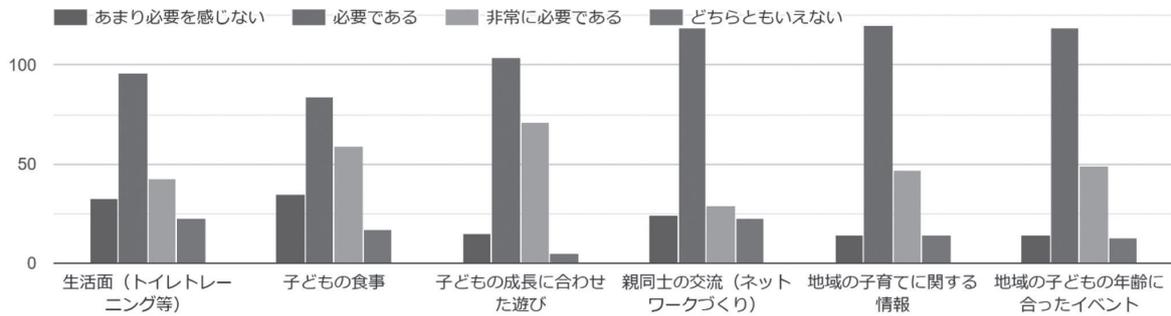


図12 どのくらい支援が必要か

ワークづくり)」、「地域の子育てに関する情報」、「地域の子どもの年齢に合ったイベント」も「必要である」という回答数は多くなっているが、「非常に必要である」はそれほど多くはない。

問12の必要な支援に関して、具体的な意見がある場合、自由記述での回答を得た。各項目別に分けた結果は、以下の通りであった。

《生活面（トイレトレーニングなど）》

- ・食育、トイレトレーニングは早めに進めたい。
- ・トイレについて、相談できる窓口がほしい。

《子どもの食事》

なし

《子どもの成長に合わせた遊び》

- ・子どもとのふれあい方が（遊びや声掛け絵本等）わからないことが多いので地域のサポートがあると嬉しい。
- ・同じ月齢くらいの子どものと遊ぶ機会や家ではなかなかできない遊びなど。
- ・運動会やお子さん同士の玩具作りなど。

《親同士の交流（ネットワークづくり）》

- ・もっと市内で子供向けのイベント（乳幼児）をしてほしい。
- ・コロナ禍の出産でイベントが少なかったのこれから増えてくるといいと思う。
- ・親同士の交流などもあれば嬉しい。

- ・親の交流やイベントを充実させるのに税金を使うのは抵抗がある。

《地域の子育てに関する情報》

- ・サークル情報が一覧になった冊子欲しい。
- ・十分に情報を得られる。

《その他》

① 相談全体

- ・困っている内容を気軽に相談できる場があるといい。
- ・同年代の子やその保護者の方と関われる機会は相談などしやすくしてほしいと感じる。

② 仕事との両立支援

- ・共働きであり、身近なところに頼れる親族がいない家庭に対する支援。
- ・保育園で希望すると夕食まで出してくれるサービスがあると聞いたため、現在お世話になっている施設でもであると助かると感じる。

Q13 現在、以下の子育て支援をどのくらい利用していますか。当てはまるものを選んでください。

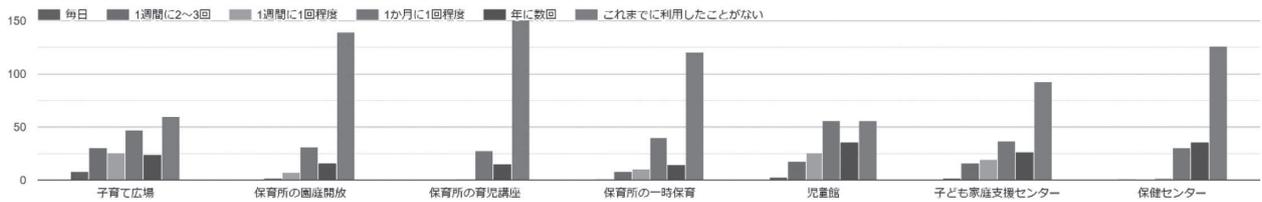


図13 子育て支援をどれだけ利用しているか

問13「現在、以下の子育て支援をどのくらい利用していますか。」では、「子育て広場」、「保育所の園庭開放」、「保育所の育児講座」、「保育所の一時保育」、「児童館」、「子ども家庭支援センター」、「保健センター」の各項目について、「毎日」、「1週間に2~3回」、「1週間に1回程度」、「1か月に1回程度」、「年に数回」、「これまでに利用したことがない」の6段階で回答を得た（図13）。

各項目で、「これまでに利用したことがない」の回答数が最も多かったのが、「保育所の育児講座」であり、次いで、「保育所の園庭開放」となっている。一方で、比較的に利用されているのが、「子育て広場」や「児童館」である。これらの利用は、「毎日」という回答から「年に数回」まで使用頻度の幅はあるが、子どもが遊べる場所として広く利用されていることがわかる。

最後に、問14「子育て支援は、必要だと感じていますか。」の問いでは、「1、あまり感じていない」～「5、とても感じている」の5段階でたずねた（図14）。

その結果、「5、とても感じている」が最も多く（48.7%）、「4、感じている」と合わせて、約8割がその必要性を感じていることがわかった。

問14に関して、① 具体的に不安なことや困っていること、② どのような支援があったらよいと思うか、の2点を自由記述によりたずねたところ、以下のような意見が得られた。

①具体的に不安なことや困っていること

《子どもの発達》（9件）

- ・発達がゆっくりなのか、会話があまりできない事に少し不安を感じている。

Q14 子育て支援は、必要だと感じていますか。

195件の回答

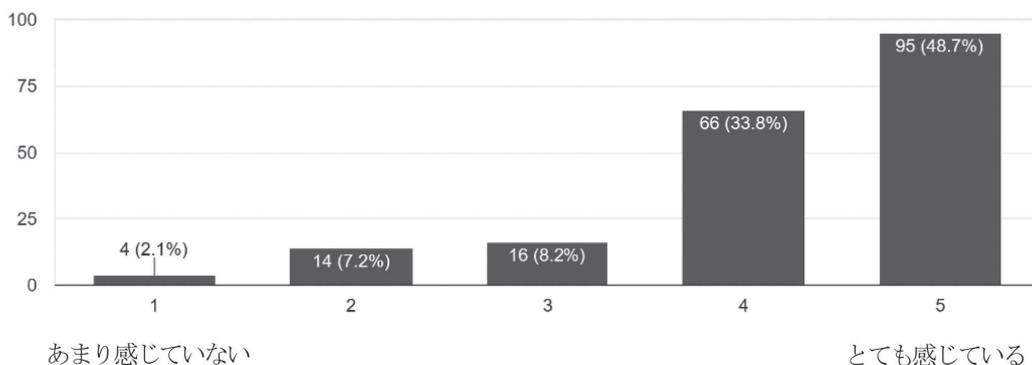


図14 子育て支援は必要だと感じているか

- ・子どもの日々の成長に悩むことがある。例えば毎回寝起きに大泣き、外に出ると「あっち行きたい」等すべてに対して泣いて指を指して訴えどこまで付き合えば良いのか、等
- ・個々の個性があり、子育てに正解はないというが、やはり周りの子と比べたりしてしまう。
- ・子供の発達について。
- ・子供の癩癩への対応が難しい。
- ・子どもの心身の発達が正常に行われていくか。親として、新生児の関わり方が適切であるか。
- ・子供があまり懐いてくれない。
- ・奇声がすごい、よく喋っている。
- ・娘が嫌な時、すぐに叩いたり、物を投げたりする。

《生活面（寝かしつけ、睡眠、授乳など）》（8件）

- ・睡眠の質が悪い気がする。
- ・睡眠、生活リズム。
- ・泣いた時のあやし方、寝かしつけ、しんどくない抱っこの仕方について、抱っこに疲れたらどうすれば良いか。
- ・月齢や発達に合った授乳、食事、遊び等がわからないこと。
- ・家に居るとテレビを見たいとなってしまう。
- ・乳頭混乱をおこして母乳を嫌がるようになってしまった。
- ・機嫌が悪い時や泣きが落ち着かない時にどんな対応をしたら機嫌が良くなるのか分からない。
- ・病気や体調不良を見抜くことが出来てないのではない不安。

《子どもの食事》（2件）

- ・食事の食ベムラがある。食事を落ち着いて食べられない。
- ・離乳食の食べが悪い。

《親同士の交流（ネットワークづくり）》（1件）

- ・近隣の子育て世帯との交流。

《就労・金銭面》（9件）

- ・金銭的なこと。
- ・養育費などの金銭面が不安。
- ・塾や習い事の費用、学費などの金銭面。
- ・必要以上にお金がかかり、なかなか見通しが持てない。
- ・仕事、自分の時間とのバランス、金銭面。
- ・育児と仕事の両立。（2件）
- ・育児休業後の生活。

- ・仕事上、不規則な生活となることが多いが、子供の成長への影響が心配。

《保育園が関わる悩み》（9件）

- ・保育園に入れるか。（7件）
- ・一時保育を使ってみたい気持ちはあるが、初めて使う勇気が必要。子どもと離れる不安。
- ・3歳になるとみんな保育園に行ってしまう。同年代の友達がいない。

《母親の悩み》（5件）

- ・お母さんも幸せにと言われるようにはなったが、具体策が提示されていない。
- ・イライラして怒ってしまうので、子供に悪影響でないか、不安になる。
- ・自分の体調が良い時は良いが、悪くなると子どもを見られる人がいなくなるので不安。
- ・その時々悩んだ時にすぐに相談できる人（所）がほしい。ネットで調べるが色んな事が書いてあり悩んでしまう。
- ・高齢出産なので体力面が心配。

《きょうだい育児の悩み》（2件）

- ・上の子で普通だったことが下の子には普通ではなく、子どもによって全然違うのでうまく育てられるか不安。
- ・2人育児について。上の子の心のケア。体調が悪い時の病院の選び方。

《その他》（3件）

- ・悩みが付きまない。
- ・分からないことが分からない状態なのが不安な気がする。
- ・子どもにわかりやすく伝えるにはどんな方法をとればいいのかいつも迷いがある。

具体的に不安なことや困っていることとしては《子どもの発達》、《生活面（寝かしつけ、睡眠、授乳など）》、《就労・金銭面》に関する回答が多かった。

これらの回答をみると、《子どもの発達》では、子どもとどうかかわっていけばよいか、また親として関わり方が適切であるか、などの意見が多くみられた。また《生活面（寝かしつけ、睡眠、授乳など）》では、睡眠や寝かしつけなどの例が挙げられていたほか、病気や体調不良を見抜くことが出来てないのではない不安といった意見もあった。《就労・金

銭面》に関しては、育児と仕事との両立のほか、不規則な仕事による子供の成長への影響を心配する意見もあった。

②どのような支援があったらよいと思うか

どのような支援があったらよいかについては、次のような回答が得られた。

《生活面（寝かしつけ、睡眠など）》（1件）

- ・夜泣きがおさまらない時の駆け込み場所。

《子どもの遊び》（2件）

- ・月齢別の遊び方など。
- ・専門職の方から遊びを教われる機会がほしい。

《親同士の交流（ネットワークづくり）》（3件）

- ・保育園などで保護者同士の交流が出来る行事や保育参加があると嬉しい。
- ・気の合う子育てママを見つけられるような場。
- ・子育てをし合う仲間のようなものがあると良いと思う。

《行事やイベント》（8件）

- ・乳幼児向けのイベント、一歳、二歳や年齢ごとのイベント。
- ・年齢別のイベントや園庭開放。
- ・同じお子さん同士のイベント。
- ・子ども同士での交流が出来るイベント等。
- ・親子で楽しめるイベントや小さい子向けのイベント。
- ・地区ごとの親子交流会。
- ・毎日子供をどこかしらに連れて行くので、特に公園に行けない時期は屋内施設が充実しているとありがたい。
- ・イベントを行っている所を一目見て把握出来るサイトがあったらありがたい。

《就労・金銭面》（8件）

- ・金銭面。（2件）
- ・育休中の金銭面。
- ・オムツやミルクの割引サービスなど。
- ・学費の補助。
- ・共働きであり、身近なところに頼れる親族がいない家庭に対する支援。
- ・仕事と両立できる支援、特に病気の時など。
- ・パパに早く仕事から帰ってきてほしい。

《保育園に関する事》（7件）

- ・保育園幼稚園の情報を多く。
- ・安く一時保育やファミリーサポートが利用できるのもっと気軽に頼れるのでそのような支援が欲しい。
- ・無料で気軽に預けられる制度。月に三回など。
- ・親の体調不良の際にある程度の期間利用できるサービスがほしい。
- ・一時保育の拡大。
- ・相談や指導。自分で調べたいがなかなか時間をとれないので軽くでも教えてくれるとありがたい。家を出る機会にもなる。
- ・保育園に希望者は入れる。

《相談できる場》（5件）

- ・色々な相談が出来る電話窓口や、お問い合わせができる所がほしい。
- ・電話やメールで気軽に相談できる窓口が欲しい。
- ・産後すぐは、わからない事ばかりで、相談先があると安心すると思う。
- ・LINEですぐお医者様と繋がれる支援。
- ・専門家に聞ける機会。

《その他》（4件）

- ・子供を預かる仕組み。
- ・保育園小学校の連携として朝学童。
- ・具体的な育児の話を知りたい。
- ・ワンオペでお休みの日にお出かけをすると、子どもセンターなどであっても、3人以上子どもがいる事を前提とされていないように感じる（特に全員年齢が近い場合）。子どもが多くても、もっと気軽に安心して遊ばせられる場所があったらよいと感じる。

以上より、② 具体的な支援としては、多かったのは、《行事やイベント》に関する要望であった。子どものイベントだけでなく、親子で参加できるイベントや、親だけの交流会など、様々であった。また《親同士の交流（ネットワークづくり）》も多く要望があり、「保育園などで保護者同士の交流が出来る行事や保育参加があると嬉しい」という意見があった。

一方、《生活面（寝かしつけ、睡眠など）》については、夜泣きのことや、《子どもの遊び》では、専門職から遊びを教わる機会などを求められる意見があった。

このように、① 具体的に不安なことや困ってい

ること、② どのような支援があったらよいと思うか、の2つの自由記述について、①、②を全体的にみると、①具体的に不安なことや困ったことでは、子どもの発達や生活面などの事柄が多く挙げられていたのに対し、②具体的な支援については、行事やイベントに関するものが多く挙げられていた。①で多く挙がっていた生活面については、特に睡眠、食事などに関しては、家庭内で行っていかねなければならぬことが多く、周りから直接的な支援が得られにくいものであるため、社会的な支援として求められにくいのではないかとと思われるが、困った時や悩んだ時が出てきた時に、一人で悩みを抱えるのではなく、専門的な立場からの助言などが得られるというのであれば、生活面においても間接的な支援というものはできるのではないかと考えられる。

こうしたことを踏まえて、今後、未就園児の保護者に対する支援としては、(1) 発達や生活に対して専門家からの助言や支援、(2) 親子や保護者の交流が持てる機会、といったことが考えられる。

まず、(1) については、保育所には、多くの専門職がいる。子どもの発達や遊びを専門的に理解している保育士がいる。子どもの発達の悩みや年齢・月齢に合わせた遊びなどについて悩んでいる保護者がいるとすれば、様々な子どもとかわった経験を持つ保育士がその悩みに対して助言できるかもしれない。また保育所には、保育士以外にも、栄養士や看護師といった専門職がいる。子どもがあまり食べない、などの悩みがある場合には、栄養士に相談したり、そのような食に関する講話を聞いたりすることができる。またケガのことなどは看護師に相談する、といったこともできるであろう。未就園児の親にとって、こうした専門職から子育てに関する話を聞く機会が持てれば、少しでも困っていることや不安の解消につながるのではないかと考えられる。未就園児の保護者に対する支援の一つとして、こうした保育所における専門職の知見を活用するということが考えられる。

つぎに、(2) 親子や保護者の交流が持てる機会については、地域に根差した保育所であれば、地域のつながりの拠点としての役割も果たすことができ、地域の保護者の交流やネットワークづくりにも生かすことができると考えられる。保育所に通っていない未就園児の保護者にも保育所に来てもらう機会が持てれば、保育所に通っている、いないにかかわらず、親子や保護者での交流の機会が得られると考えられる。

さいごに、子どもが安全に過ごせる場所としての

保育所を生かした支援というものが考えられる。子どもがまだ小さなうちは安全面などに気を付けて、少しでも目を離せず、それが保護者にとって負担感につながるが、保育所は子どもも保護者も安心して過ごせる場所である。すでに、保育所の園庭開放や一時利用などが行われているが、保育所の機能を生かした保護者や子どもの活動の拠点となるような場所づくりが目指される。

V. 今後の課題

本研究の残された課題として、次の点がある。

まず、未就園児の保護者が普段の子育てで相談できる人や関わっている人や施設について、アンケートの質問の中で把握することができたが、直接的な支援にかかわらないところで、緩やかなネットワークについての把握が必要ということである。今回のアンケート調査で明らかになったのは、親子や保護者の交流が持てる機会の必要性で、地域の保護者での交流やネットワークづくりの場が求められていることである。そのため、直接何か困ったことで助けになる人だけでなく、未就園児の保護者間などで、どのような場所で、どのようなつながりが持っているのかを把握する必要がある。

次に、本研究のアンケート調査は、保育所に来られた方や近隣の公園で親子で遊んでいた方を対象にアンケート調査票を配布したため、そういった場に来られない人が抜け落ちてしまっていることがある。その人が必要とする資源があっても本当に利用できるかどうかは、アクセシビリティの問題が大きくかわっている。情報や手段がなく、必要なことへの支援があることを知らずにいる人の把握が課題である。

さらに、子どもの健全な育ちを支えるという観点で、保育所がどのように未就園児の保護者にかかわる際、どのように連続性のあるかわり方ができるか、ということである。保育所に通っている場合と違い、断片的な支援となってしまう可能性があるため、一つの施設だけではなく、地域の複数の施設がどのように連携するか、地域での子育て支援の全体像を踏まえる必要がある。

最後に、保育所の主体的な地域子育て支援活動の状況を明らかにすることが挙げられる。保育所がその地域のニーズを保育所の行う活動や持っているネットワークでとらえ、そこから保育所が直接的または間接的に地域の保護者を支援するような取り組みを把握し、それが地域にどのような効果をもたら

しているのか、その実態を捉えていく必要がある。

以上より、未就園児における保護者への支援は、地域の実態に沿ったアプローチや連携の把握が必要である。

VII. 謝辞

本研究のために、アンケート調査にご協力いただきました保護者の皆様に心より感謝申し上げます。また調査票の配布などにご協力いただきました保育園職員の皆様にも御礼申し上げます。

また、本研究を助成していただいた日本保育協会保育科学研究所に深く感謝申し上げます。

参考文献

- 鑑さやか・千葉ちえみ（2004）「社会福祉実践における保育士の役割と課題：子育て支援に関する相談援助内容の多様化から」『保健福祉学研究』（東北文化学園大学）p.27-38
- 岸本美紀・武藤久枝（2019）「保育者が保護者支援で抱える困難感の内容と構造—先行研究の分析結果から—」『岡崎女子大学・女子短期大学研究紀要』52、p.39-46
- 小嶋玲子（2022）「令和に入った2020年代に求められる地域子育て支援—「地域における保育所・保育士等の在り方に関する検討会 取りまとめ」からの考察—」『名古屋柳城短期大学研究紀要』第44号、p.34-57
- 田中浩二・廣瀬春次・梅木幹司（2023）「保護者の子育て支援に対する保育関連行為の有用性に関する検討—保育者と保護者の意識の違いにおける分析から—」『至誠館大学紀要』Vol.10,p.49-57
- 福永知久・仁科伍浩（2022）「保育所で紡ぐ人間関係と子ども家庭支援・子育て支援の実際」『鹿児島純心女子大学看護栄養学部紀要』Vol.26、p.14-21
- 村田ひろ子（2023）「ジェンダーをめぐる中高生と親の意識～「中学生・高校生の生活と意識調査2022」から②～」
- 『放送研究と調査』2023年6月号、NHK放送文化研究所、p.64-75
- 山西裕美・出川聖尚子・岡村ゆかり（2023）「保育所・幼稚園・認定こども園における保護者への子育て支援についての一考察—」『社会関係研究』第28巻 第2号